



▲津山城外観コンピューター・グラフィックス

新生津山市が誕生しました。新たな出発を迎え、改めて津山城が築城された時代背景を考えたいと思います。

天下分け目の関ヶ原の合戦以降、日本の城郭は全盛期を迎えることとなります。この時期は関ヶ原の戦いの戦後処理により大名の全国的な配置換え（転封）と東軍に属した大名の禄高の大幅増加が行われ、それらを起因として全国的に「慶長の築城ラッシュ」とでも言うべき、築城大活況期を迎えていました。この時期のようすは『鍋島直茂譜考補』の記事の中で、慶長14年（1609）に肥前佐賀城の天守が竣工したことを述べた後に「今年、日本国中の天守数25立つ」と記されているように、まさに空前の築城ラッシュでした。

また、この時期は石垣の構築技術や新形式の天守建築の出現など、土木建築技術が飛躍的に

津山城百聞録

～築城の時代背景～

進歩を遂げた時期であり、これらの新技術は徳川家康による天下普請を媒介として全国にいつせいに広がることとなりました。このような築城の活況は、慶長20年（元和元年・1615）の大坂夏の陣までの約15年間続き、この年幕府が公布した武家諸法度により新規の築城などが禁止されて、終わりを迎えることとなりました。話を津山城に戻します。津山城を築城したのは、ご承知のとおり森忠政です。森忠政は信州川中島の海津城から慶長8年（1603）に美作国一円18万6、500石を与えられ、美作に入封しました。そして翌慶長9年（1604）に津山城築城を開始したのです。まさに関ヶ原以降の大名の転封、それに伴う新規築城という全国的な大きな流れに乗ったものです。

参考までにこの時期の外様大名による築城例をあげると、加藤清正の熊本城、細川忠興の小倉城、加藤嘉明らの伊予松山城、池田輝正の姫路城、藤堂高虎の伊賀上野城、伊達政宗の仙台城など日本を代表する城があり、津山城もそれらの城と匹敵する規模の城郭でした。

さらに、津山城の築城は元和2年（1616）まで続くのですが、これは元和元年の武家諸法度の公布により築城を終了し、一応津山城の「完成」としたものと思われまます。

こうしてみると、津山城は慶長の築城ラッシュの前半に築城を開始し、その後足かけ13年にわたり築城を継続し、元和の武家諸法度により築城を終了したという、全国的な築城ラッシュのほぼ全期間にわたり築城が行われ続けた城郭であったのです。

森忠政の津山城への執念のようなものを感じます。

1月中のひとの動き

人口	90,231人(前月比+4)
男	43,050人(同+7)
女	47,181人(同△3)
世帯	35,214世帯(同+10)
転入	230人
転出	235人
出生	98人
死亡	89人

新津山市の人口 111,608人
(2月1日現在)

つぶやき編集室

■もうすぐ春。新しい津山市は南北に長く、地域によって春の訪れ方が少しずつ違うかもしれませんね。市の花桜も長期間見ごろがありそうで、何回も花見が楽しめそうです。早速いろんなところへ行ってみよう。(郁)

■こんな余裕を見せている(郁)さんですが、編集室は相当きてました。レイアウトや新コーナーの命名一つひとつに苦勞し、みんなへろへろ状態に。こんな編集室ですが、うれしいニュースもありました。(e)

■そうですよ。ふるさとCMで優秀賞！ご協力いただいた市民のみなさんにはお世話になりました(19ページに関連記事)。大きな期待を背負って臨んだ審査発表。何年かぶりの緊張感に押しつぶされそうでした。(X)

つやま
広報

平成17年
2005
3月
605号

編集・発行

津山市企画部行政広報室(市役所3階)
〒708-8501 岡山県津山市山北520
☎0868-32-2029 ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
※広報つやまはホームページで閲覧できます

発行日 毎月10日

印刷 株式会社 廣陽本社



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください